

6 べき級数による微分方程式の解法

前回までの演習の中で、微分方程式の解を多項式の中から求める、ということをし考えたが、一般には微分方程式の解は多項式になるとは限らない。実際、「微積分」の授業では、

$$e^x = 1 + x + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3!}x^3 + \cdots = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{n!}x^n$$

$$\sin x = x - \frac{1}{3!}x^3 + \frac{1}{5!}x^5 - \cdots = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n+1)!}x^{2n+1}$$

$$\cos x = 1 - \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{4!}x^4 - \cdots = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n)!}x^{2n}$$

などを解とする微分方程式について学んだと思う。そこで、この節では、解が

$$f(x) = c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 + \cdots = \sum_{n=0}^{\infty} c_nx^n$$

(c_0, c_1, c_2, \dots は定数) という形 をしている と仮定して微分方程式を解くことを考える。上の形の式を「べき級数」と呼ぶので、そのような解法をべき級数法という。

$f'(x)$ や $f''(x)$ は、多項式の場合と同様に項別に、

$$\begin{aligned} f'(x) &= (c_0)' + (c_1x)' + (c_2x^2)' + (c_3x^3)' + \cdots = c_1 + 2c_2x + 3c_3x^2 + \cdots \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n, \\ f''(x) &= (c_1)' + (2c_2x)' + (3c_3x^2)' + (4c_4x^3)' + \cdots = 2c_2 + 3 \cdot 2c_3x + 4 \cdot 3c_4x^2 + \cdots \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} (n+2)(n+1)c_{n+2}x^n \end{aligned}$$

と計算して、与えられた微分方程式を各 x^n の項ごとにまとめて c_n たちが満たすべき条件を調べる。実際に具体例を見ていった方が早く要領をつかめると思う：

例 6.1 微分方程式 $f'(x) - f(x) = 0$ を解いてみる。まず、

$$\begin{aligned} f'(x) - f(x) = 0 &\Leftrightarrow \left(\sum_{n=0}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n \right) - \left(\sum_{n=0}^{\infty} c_nx^n \right) = 0 \\ &\Leftrightarrow \sum_{n=0}^{\infty} \{(n+1)c_{n+1} - c_n\}x^n = 0. \end{aligned}$$

上記で、各 x^n の係数が 0 になるための条件は、

$$c_{n+1} = \frac{c_n}{n+1} \quad (n = 0, 1, 2, \dots).$$

つまり、 $c_1 = c_0$, $c_2 = \frac{c_1}{2} = \frac{c_0}{2}$, $c_3 = \frac{c_2}{3} = \frac{c_0}{3!}$, \dots , $c_n = \frac{c_0}{n!}$ となって、

$$f(x) = c_0 + c_0x + \frac{c_0}{2}x^2 + \frac{c_0}{3!}x^3 + \dots = c_0 \left(1 + x + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3!}x^3 + \dots \right) = c_0e^x.$$

c_0 は何であっても $f(x) = c_0e^x$ とすれば最初の微分方程式が満たされるので、一般解として

$$f(x) = c_0e^x \quad (c_0 \text{ は任意定数})$$

が得られる。(前回までの言葉でいうと、解全体が 1 次元のベクトル空間をなし、 e^x がその基底 (基本解) になっている.)

$f(0) = c_0$ なので、あらかじめ初期値 $f(0)$ が分かっているならば、 c_0 の部分も特定されて唯一つの解が求まる。例えば、初期値が $f(0) = 3$ であったとすると、解は $f(x) = 3e^x$ となる。

例 6.2 微分方程式 $f''(x) + f(x) = 0$ を解く。

$$\begin{aligned} f''(x) + f(x) = 0 &\Leftrightarrow \left(\sum_{n=0}^{\infty} (n+2)(n+1)c_{n+2}x^n \right) + \left(\sum_{n=0}^{\infty} c_nx^n \right) = 0 \\ &\Leftrightarrow \sum_{n=0}^{\infty} \{(n+2)(n+1)c_{n+2} + c_n\}x^n = 0. \end{aligned}$$

各 x^n の係数が 0 になるための条件は、

$$c_{n+2} = -\frac{c_n}{(n+2)(n+1)} \quad (n = 0, 1, 2, \dots).$$

つまり、 $c_2 = -\frac{c_0}{2}$, $c_3 = -\frac{c_1}{3 \cdot 2}$, $c_4 = -\frac{c_2}{4 \cdot 3} = \frac{c_0}{4!}$, $c_5 = -\frac{c_3}{5 \cdot 4} = \frac{c_1}{5!}$, \dots ,

$$c_{2n} = (-1)^n \frac{c_0}{(2n)!}, \quad c_{2n+1} = (-1)^n \frac{c_1}{(2n+1)!}$$

となって、

$$\begin{aligned} f(x) &= c_0 + c_1x - \frac{c_0}{2}x^2 - \frac{c_1}{3!}x^3 + \frac{c_0}{4!}x^4 + \frac{c_1}{5!}x^5 - \dots \\ &= c_0 \left(1 - \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{4!}x^4 - \frac{1}{6!}x^6 + \dots \right) + c_1 \left(x - \frac{1}{3!}x^3 + \frac{1}{5!}x^5 - \frac{1}{7!}x^7 + \dots \right) \\ &= c_0 \cos x + c_1 \sin x. \end{aligned}$$

c_0, c_1 は任意で良いので、一般解として

$$f(x) = c_0 \cos x + c_1 \sin x \quad (c_0, c_1 \text{ は任意定数})$$

が得られる。(解全体が 2 次元のベクトル空間をなし、 $\cos x, \sin x$ がその基底 (基本解) になっている.)

$f(0) = c_0, f'(0) = c_1$ なので、初期値 $f(0)$ と $f'(0)$ が分かっているならば、 c_0, c_1 の部分も特定されて唯一つの解が求まる。例えば、 $f(0) = 1, f'(0) = 0$ なら解は $f(x) = \cos x$ となり、また、 $f(0) = 0, f'(0) = 1$ なら解は $f(x) = \sin x$ となる。

例 6.3 微分方程式 $f'(x) - 4xf(x) = 0$ を解く。

$$\begin{aligned} f'(x) - 4xf(x) = 0 &\Leftrightarrow \left(\sum_{n=0}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n \right) - 4x \left(\sum_{n=0}^{\infty} c_n x^n \right) = 0 \\ &\Leftrightarrow \left(\sum_{n=0}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n \right) - \left(\sum_{n=0}^{\infty} 4c_n x^{n+1} \right) = 0 \\ &\Leftrightarrow \left(c_1 + \sum_{n=1}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n \right) - \left(\sum_{n=1}^{\infty} 4c_{n-1}x^n \right) = 0 \\ &\Leftrightarrow c_1 + \sum_{n=1}^{\infty} \{(n+1)c_{n+1} - 4c_{n-1}\}x^n = 0. \end{aligned}$$

各 x^n の係数が 0 になるには、

$$c_1 = 0, \quad c_{n+1} = \frac{4c_{n-1}}{n+1} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

となればよい。つまり、 $c_1 = 0, c_2 = 2c_0, c_3 = \frac{4c_1}{3} = 0, c_4 = c_2 = \frac{2^2c_0}{2}, \dots,$

$$c_{2n} = \frac{4c_{2n-2}}{2n} = \frac{2c_{2(n-1)}}{n} = \dots = \frac{2^n c_0}{n!}, \quad c_{2n+1} = 0,$$

となって、

$$f(x) = c_0 + 2c_0x^2 + \frac{2^2c_0}{2}x^4 + \frac{2^3c_0}{3!}x^6 + \dots = c_0 \left(1 + (2x^2) + \frac{1}{2}(2x^2)^2 + \frac{1}{3!}(2x^2)^3 + \dots \right) = c_0 e^{2x^2}.$$

c_0 は任意で良いので、一般解として

$$f(x) = c_0 e^{2x^2} \quad (c_0 \text{ は任意定数})$$

が得られる。

演習 6.4 次の微分方程式をべき級数法で解け。

- (1) $(1+x)f'(x) - f(x) = 0$
- (2) $f'(x) + f(x) = 0$
- (3) $f''(x) + 9f(x) = 0$